

令和2年度東京都立多摩科学技術高等学校 学校経営報告

東京都立多摩科学技術高等学校長
白鳥 靖

1 令和2年度学校経営計画の実施結果（概要）

本校は、平成22年度に開校し、第九期生の卒業生を送り出すことができた。
研究活動推進および理系進学校としての体制基盤確立のために、次の4点を重点として学校経営を行った。

- (1) 希望の理系大学進学を実現させる、進学校としての教育内容と指導を充実させる。
- (2) 科学技術への関心と基礎力育成のための本校ならではの教育内容を充実させる。
- (3) 心豊かで責任感と主体性に富む生徒を育成するための指導内容を充実させる。
- (4) 本校志願者数を確保する（適正入選倍率の確保）。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの学校行事を中止せざるを得ない状況であった。しかし、オンラインによる研究発表会や授業配信など新たな形を築くこともできた1年であった。文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクール（以下、SSH）第二期の4年目であるとともに、東京都教育委員会指定の進学指導推進校3年目であり、これらの事業を活用して教育活動の充実を図ってきた。第九期生の国公立大学合格は60名以上の目標で取り組み、結果は42名であった。既卒者8名の合格者を含めると50名が国公立大学に合格した。新型コロナウイルス感染症の影響により学習が思うように進まなかったことが原因と考えられる。次年度は、本校の学習指導と科学技術の体験を通して成長させる強みを活かした教育をさらに充実させる必要があると考える。

2 今年度の取組と自己評価

本年度の活動目標と主要方策別に振り返りを行うとともに、次年度取り組むべき課題を整理した。

(1) 「教育活動の目標と方策」に対する結果と次年度への反映

活動目標	本年度（R2）の主な方策	取組結果 （○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
①学習指導の充実	(1) 学力向上に向けた組織的な学習指導（進学指導推進校） ・模試分析を活用した指導内容・方法の充実	【△】 模試分析会への参加が担当学年に偏りがちであった。進路指導部から模試分析会の在り方について改善の提案あり。	・進路指導部からの提案により模試分析会の実施方法を改善し、教科による分析時間の確保および検討結果の発表を行う。
	(2) 自宅学習促進 ・自宅（授業外）学習の実態把握および動機付け	【△】 年度当初は臨時休業期間となり、1年生への働きかけが十分にできなかった。	・新1年生に対し入学当初に、クラス担任及び各教科から働きかけを行い、高校生としての学習習慣を身に付けさせる。
	(3) 教育課程及び学力スタンダードの円滑な実施	【△】 新型コロナウイルス感染症の影響により教育課程の変更も生じたが最終的には概ね実施できた。	・土曜授業の効果や学力スタンダードから課題を把握し、より効果的な教育課程の管理を行う。
	(4) 授業力の向上に向けた取組 ・大学入試問題の分析と生徒への還元 ・指導教諭の授業参観等を活用し、教科会の充実	【○】 大学入試に対応するため、1人5校以上の入試問題分析を行い生徒に還元した。 教員相互の授業参観を実施した。	・教員相互の授業参観は定着してきたが、指導教諭や他校教員の授業見学等による授業力向上を進めていく。

活動目標	本年度（R2）の主な方策	取組結果 （○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
①学習指導の 充実	（5）「課題研究、卒業研究」の指導充実（SSH・理数研究校） ・進学（AO、推薦）の強みとなるテーマと指導の徹底 ・科学技術アドバイザー制度の活用	【△】 新型コロナウイルス感染症の影響により研究指導を計画通り進めることができなかった。 アドバイザー制度を活用し、科学技術への興味関心を向上させることができた。	・東京農工大学との連携プログラムを活用し研究活動への意識付け・テーマ設定指導を充実させる。 ・アドバイザー授業の内容を充実させる。
	（6）教科横断的な視点に立った教育内容の充実 ・クロスカリキュラムの開発・実践と評価（SSH）	【○】 教員相互の授業参観～サイエンスワークショップ～次年度通常授業での展開という流れを作ることができた。	・通常授業における展開を実施し、その成果を確認する。
	（7）科学技術に関する指導の充実（SSH） ・カリキュラム開発の総合研究 ・第二期SSH事業の充実	【○】 オンラインでの発表や交流を多く実施することができ、第三期申請に向けた準備を整えることができた。	・第Ⅲ期申請に向けた準備を加速するとともに、取組の前倒し実施を行う。
	（8）国際体験の充実（SSH・英語教育推進校） ・海外研修や国際体験の実施	【△】 新型コロナウイルス感染症の影響により海外研修を実施することはできなかったがオンラインによる交流を数多く実施できた。	・海外との交流を継続するとともに共同研究に向けた取り組みを開始する。 ・JETを活用した英語研修実施。
	（9）オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・2020大会以降のレガシー構築を見据えた取組を実施	【○】 国際理解としてシンガポール・韓国・香港・台湾など多くの国の生徒と海外交流を実施した。	・研究活動を通して、環境問題について考えさせるとともに、東京2020大会以降のレガシー構築を見据えた取組を行う。
	（10）英語教育推進校として4技能向上に向けた取組	【○】 新型コロナウイルス感染症の影響によりJETの活用はできなかったが英語科教員による指導により4技能を向上させることができた（GTEC）。	・使える英語力の向上を推進するとともに、受験に対応できる英語力を身につけさせる。
②進路指導の 充実	（1）進学指導校内体制の充実 ・入学～受験までの総合指導の充実 ・教科代表者会議を活用した進学指導の充実	【△】 進路部・学年を中心に組織的な指導を行った。国公立大42名の合格者を出すことができた。	・模試分析会の実施方法を改善し進学指導体制の充実を図る。
	（2）生徒の進路実現に向けた意識の向上（1・2年生） ・進路講演会や成功事例紹介等の活用	【○】 外部講師を招聘して進学意識を高める講演会を実施した。3月には卒業生による合格体験談講話を実施し意欲の向上を図った。	・合格体験講話など、進学意識を継続する取り組みを行う。 ・東京農工大学との連携を活用し大学研究室訪問などを実施し、進学意欲の向上を図る。
	（3）進路指導を支援する体制の構築と活用 ・探究活動を活かすための大学研究室調査 ・担任・進路・教科の情報共有による個別指導の充実	【○】 科学技術科教員による大学研究室調査を実施した。進学指導検討会を実施し、情報共有を図るとともに個別指導に活かした。	・進路指導を支援するシステムの活用の拡大を図る。
③生活指導の 充実	（1）「あいさつの飛び交う学校」定着と取組の推進 ・教職員による率先垂範	【△】 教職員からの挨拶がないと、自らはできない生徒もいる状況である。	・あいさつの飛び交う学校を目指し、さらに定着を図っていく。 ・教員による率先垂範の徹底を図る。
	（2）「けじめのある気持ちの良い学校」全職員一貫指導 ・遅刻防止・身だしなみ指導	【×】 2学期の遅刻者数増加により1人平均3回以内を達成することができなかった。	・2学期の遅刻指導の徹底が課題であり、充実させる必要がある。

活動目標	本年度（R2）の主な方策	取組結果 （○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
③生活指導の充実	（３）体罰の根絶に向けた取組の推進 ・教科会及び生活指導部を中心とした体制の構築	【○】 校内研修の充実と教員間の意識の向上により、体罰のない指導が実現している。	・継続する。
	（４）いじめに対する総合対策の実施 ・学校いじめ対策委員会を中心とした指導体制の確立	【○】 いじめのない学校づくりを目指し、体制を確立することができた。	・継続する。
	（５）自殺対策に資する教育の推進 ・自殺総合対策大綱に基づく指導の実施	【○】 日頃の生徒観察やアンケート調査を通して指導を行うことができた。	・継続する。
	（６）小金井工業高校との連携充実 ・生徒指導や校内美化環境の情報共有と円滑な運営	【△】 年度当初に共有するクラス担任の打合せ等を通して、大きなトラブルもなく連携が図れている。	・管理職による毎日の打ち合わせを継続し、情報共有の徹底を図る。
	（１）外部発表機会の活用と発表内容の充実（SSH） ・計画的な取組の実施 ・高い目標への挑戦と指導の実施	【△】 新型コロナウイルス感染症の影響により外部発表会の中止などがあったため発表件数の増加には至らなかったがオンラインという新たな方法を得ることができた。	・「課題研究」「卒業研究」や部活動を充実させることで、研究活動を促進し、外部大会でその成果を発表させる。
	（２）科学リテラシー振興拠点として地域連携の充実（SSH） ・科学の祭典や小中学校と連携	【×】 新型コロナウイルス感染症の影響により地域連携を進めることができなかった。	・コロナ禍における地域連携の方法を模索し実施する。
④特別活動、部活動の充実	（３）科学技術系高校の特色を生かした学習等の実施	【×】 新型コロナウイルス感染症の影響により文化祭や遠足、修学旅行が中止となり十分な活動はできなかった。	・コロナ禍における実施方法を検討し本校の特色を生かした学習活動を充実させる。
	（４）部活動や生徒活動の活発化（特別推薦の活用）	【△】 部活参加率は94%であるが新型コロナウイルス感染症の影響により活動自体ができない状況が続いた。	・部活動が実施できることを期待するとともに支援体制の充実を図る。
	（５）生徒の体力向上の推進 ・東京都統一体力テストの実施と施策の活用	【○】 体力テストを確実に実施するとともに、授業において柔軟性向上に取り組んだ。	・授業および部活動等で基礎体力の向上を図るとともに、生涯スポーツとしての意識付けを図る。
	（６）体育祭の充実 ・生徒の力で運営する体制の構築	【×】 新型コロナウイルス感染症の影響により体育祭を実施することができなかった。	・部活動や委員会を活用し、生徒の力で運営する体制の再構築を図る。
⑤保健活動の充実	（１）スクールカウンセラーとの連携による指導充実	【○】 カウンセラーと担任の連携が図れており、課題の把握に努めている。	・継続する。
	（２）特別支援教育研修実施と職員の意識啓発 ・教育相談研修実施と意識啓発	【○】 支援カードの作成やそれを基にした指導が実施できた。教育相談担当とSC、養護教諭との連携を図ることができた。	・職員の意識啓発及び共通理解のための研修の充実を図る。

活動目標	本年度（R2）の主な方策	取組結果 （○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
⑥募集・広報活動の充実	（1）平成30年度取組内容を基に活動の継続と見直し ・中学訪問、生徒訪問、中学校教員対象説明会、塾対象説明会、体験イベントなどの積極実施 ・「お客様志向」の徹底	【△】 新柄コロナウイルス感染症の影響により予定していた中学校訪問は実施できず学校見学会・説明会等は規模を縮小しての実施となった。	・学校ホームページを活用した広報活動を充実させる。
	（2）プレゼンテーション資料などの校内共有 ・全職員による共有の徹底 ・データや資料の活用、メッセージの一貫性や整合性	【△】 中学校へ送付する資料を整理し、学校紹介の統一化を図った。 学校見学会・説明会に使うスライド内容の充実及びメッセージの一貫性を図った。	・継続する。
	（3）ホームページの充実（改定、更新頻度の確保）	【○】 アクセス数 277068 件/年 （昨年 162951 件/年） 更新回数 985 回/年 （昨年 378 回/年）	・本校を希望する生徒や保護者の知りたい情報や在校生に必要な情報を掲載する。
⑦情報管理の徹底	（1）校内個人情報管理基準の運用徹底 ・「見える管理」「個人情報の意識啓発」の徹底	【○】 規定に従って教育活動を行うとともに、研修会を通して適切に運用できた。	・特に紙媒体の情報について管理を徹底する。
	（1）小金井工業高校との日常連携の充実（各分掌）	【○】 年度当初クラス担任打合せを行うとともに、日常連絡を密にし、情報交換を行った。	・2校の教育活動が円滑に実施できるよう、管理職による毎日の打ち合わせや施設使用に関する情報共有の徹底を図る。
	（2）業務の効率化を図り、働き方改革を推進 ・週60時間以上勤務する職員をゼロにする。	【△】 ひと月の定時外在籍時間が80時間を超え医師による面接指導を実施した教員が3名であった。	・業務の見直しを実施し効率化を図る。
	（3）節電の取組の徹底（照明や空調の管理の徹底）	【○】 計画に沿って実施できた。	・電力デマンドモニターの警報を活用し、節電対策に取り組む。
	（4）校外との交流による信頼される学校づくり	【×】 新柄コロナウイルス感染症の影響により多くの学校行事が中止となり校外との交流の機会が失われた。	・コロナ禍での交流方法を検討し、信頼される学校づくりを実施する。
⑧学校経営・組織体制の充実	（5）経営企画室の経営参画 ・担当者業務情報連絡会や研修会を通して、進行管理を適切に行うとともに、円滑な教育活動に努める。	【○】 朝礼により進行管理を適切に実施し遅滞なく教育活動を行うことができた。	・経営企画室職員の入替わりに向け、打ち合わせを通じた情報共有の徹底を図る。

(2) 令和2年度重点目標への取組と自己評価

【1】希望の理系大学進学を実現する進学校としての教育内容と指導を充実させる。

本校のねらいである理系大学への進学指導においては、目標の60名に対して42名と届かなかった。また、未達成となった項目が多く、次年度への課題となった。

- ① 現役国公立大学合格者数（目標：60名以上） ⇒ 実績 42名【×：未達成】
- ② 4年制大学進学率（目標：70%以上（4年制大学現役進学者数／卒業生数））
⇒ 実績 74%【○：達成】
- ③ 大学入学共通テスト（5・7型）受験率（目標：45%以上） ⇒ 実績 75%【○：達成】
- ④ センター試験得点率80%以上（目標：10名以上） ⇒ 実績 7名【×：未達成】
- ⑤ 授業以外で日常習慣としている学習時間 1・2年生共通：2時間以上
⇒ 実績 2.8時間【○：達成】
- ⑥ 全国模試 3年次偏差値57以上（目標：40名以上）
⇒ 実績 27名【×：未達成】

【2】科学技術への関心と基礎力育成のための本校ならではの教育内容を充実させる

新型コロナウイルス感染症の影響により多くの発表会や校外活動が中止となったため、訪問体験回数や校外発表件数は伸びなかった。しかし、オンラインによる発表などの新たな方法を実施することができた。

- ⑦ 外部研究施設や大学などへの訪問体験回数：3回以上/年（2年生の平均）
⇒ 実績 5回【○：達成】
- ⑧ 校外発表件数 300件/年以上 ⇒ 実績 137件【×：未達成】

【3】心豊かで責任感と主体性に富む生徒を育成するための指導内容を充実させる

生徒の生活態度は良好で、部活動については、文化系部活動が非常に盛んである。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業や分散登校などが重なり生活のリズムを崩す生徒が多かった。そのため特に2学期の遅刻者数が大きく増加してしまった。

- ⑨ 遅刻累計 3回/年（生徒一人当たり）以下（全学年平均） ⇒ 実績 約4.1回【×：未達成】
- ⑩ 部活動参加率 85%以上（1・2年生の平均） ⇒ 実績 94%【○：達成】

【4】本校志願者数の増加（適正入選倍率の確保）

推薦2.24倍、一般1.79倍と、いずれも昨年度を上回る倍率となった。コロナ禍にあり、計画していたような見学会や説明会が実施できなかったため、ホームページを通して説明動画を配信した結果と考えている。次年度も引き続き広報活動を充実させることで、本校への理解をさらに高めるとともに、本校を希望する生徒を確保する。ほとんどの生徒が「入学してよかったと思う」「やや思う」と回答しており、学習活動とともに、部活動やSSH事業等の特色ある教育活動に満足度が高いことが伺える。

- ⑪ 生徒の満足度 全学年評価平均値 80%以上（そう思う＋やや思う）
⇒ 実績 88.7%【○：達成】
- ⑫ 入選倍率：推薦2倍以上、一般2倍以上 ⇒ 実績 推薦2.24倍、一般：1.79倍
【△：一部達成】

3 次年度以降の課題と対応策

次年度は引き続き進学指導推進校としての取組やSSH事業の更なる充実を図っていくものとする。

	本年度の主な課題	次年度への反映方法
① 学習指導	<p>生徒の学力向上に向け組織的に指導内容の充実を図る必要がある。</p> <p>生徒の学習意識を更に深め、習慣化させる必要がある。</p> <p>第2期SSH事業を充実させる。</p>	<p>(1) 模試分析会の実施方法を改善し、資料に基づく教科内での検討・発表を加え、指導内容・方法の共通理解を深める。</p> <p>(2) オンラインの活用と家庭学習の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に、年度当初、長期休業明けの指導を重点的に実施するとともに、オンラインを活用した家庭学習習慣を確立する。 <p>(3) SSH取組項目の確実な実施と第3期申請に向けた取組を加速させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「課題研究」[卒業研究]の指導充実 教育効果を高める指導法の工夫 プレゼンテーションスキル指導の充実 国際交流の実施（オンライン）
② 進路指導	<p>一期生～九期生の実績を基に、理系進学校としての進路指導を推進する必要がある。</p>	<p>(1) 進学指導校内体制の充実 入学～受験までの総合指導プログラムを実施する。</p> <p>(2) 生徒の進学に取り組む意識の向上(1,2年生)</p> <p>(3) 進路指導を支援するシステムの活用の拡大 個人別指導充実：担任・進路・教科の情報共有</p>
③ 生活指導	<p>あいさつ習慣の継続指導を図り、校風として定着させる。</p> <p>遅刻指導や身だしなみへの意識を向上させる必要がある。</p> <p>体罰の根絶に向けた取組を推進する。</p> <p>併設する小金井工業との良好な関係を維持する。</p>	<p>(1) 「あいさつの飛び交う学校」定着の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の共通理解による習慣の徹底 <p>(2) 全職員一貫性ある指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻防止指導（2学期以降の指導を充実） 身だしなみ指導 <p>(3) 教科会及び生活指導部を中心とした体罰のない学校</p> <p>(4) 小金井工業高校との連携充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設使用に関するきめ細かな情報共有
④ 特別活動	<p>生徒の科学に対する関心や意欲を高める活動機会を充実させる。</p>	<p>(1) 外部発表機会の活用(SSH)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的な取組の実施 高い目標への挑戦と指導の充実 <p>(2) 科学リテラシー振興拠点として地域連携の充実</p> <p>(3) 科学の心を育てる文化祭や特別活動等の充実</p>
⑤ 保健活動	<p>多様な生徒へのケア</p> <p>特別支援教育の推進</p>	<p>(1) 教育相談体制の充実を図るとともに、スクールカウンセラーとの連携の充実</p> <p>(2) 特別支援教育研修の実施と職員の意識啓発</p>
⑥ 募集・広報活動	<p>本校への関心や認知度を高めるために、広報活動を充実させる。</p>	<p>(1) 令和2年度取組内容を基にした活動の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインによる広報活動の充実 <p>(2) プレゼンテーション資料などの校内共有徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明内容の改善と教員の共通理解 情報の管理を一元化しデータや資料を活用 <p>(3) ホームページの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 改訂及び更新内容の充実
⑦ 学校経営・組織体制	<p>情報事故、体罰事故及びサービスの厳正を撤退させる。</p> <p>ライフ・ワークバランスの推進</p> <p>小金井工業高校との相互理解</p>	<p>(1) 情報管理、体罰及びサービス規律維持については「見える管理」「啓発」の徹底を図る。</p> <p>(2) 業務の効率化（全職員による取り組み）</p> <p>(3) 小金井工業高校との連携の日常化</p>

以上